

## 小さな部品で大きく貢献

松本 義明

(株式会社秋田新電元 代表取締役社長)



### ■はじめに

秋田新電元（以下、「当社」）は、新電元工業株式会社が販売する半導体製品の製造拠点として1970年（昭和45年）に本荘市（現 由利本荘市）に設立され、半世紀以上に亘りここ秋田の地で生産活動を続けております。当社が製造している半導体は、皆さまが半導体と聞いてイメージする最先端のロジック半導体やメモリー製品等ではなく、恐らくあまり聞いたことがないパワー半導体に分類されるダイオードやサイリスタと呼ばれる電子部品が中心です。日常、あまり目にするののない電子部品ですが、ご家庭にある電化製品や自動車をはじめ、産業機器、情報通信分野など電力を必要とする製品に幅広く利用されておりますので、いつも皆さまの近くに当社で製造した小さな部品が寄り添わせて頂いております。何を生業としているのか分かり辛い会社ですが、これを機に少し身近に感じて頂けたら幸いです。

新電元グループの歴史は、1935年に創設された電気炉メーカー、電元社まで遡ります。同社は電気炉に加えセレン整流器の生産を手掛けるようになり、セレン整流器の専門メーカーとして1944年に電元工業株式会社を設立しました。その後、セレン整流素子、直流電源等を開発しましたが、戦後の荒波の中で一度は倒産状態に陥り、経営再建を余儀なくされ、1949年に整流部門を継承する形で新電元工業株式会社が設立されました。以来、幾多の荒波を乗り越えながら成長を続け、現在に至るまで73年の歴史を刻んでいます。現在は、祖業の整流素子を扱う半導体事業と電源技術を活かしたエネルギーシステム事業、そして半導体と電源回路技術から派生し大きく成長した電装事業の3本の柱でグローバルに事業を展開しています。

半導体事業では、パワー半導体が脱炭素社会に向けたキーパーツになるとして注目を集める中、シリコンやSiC（シリコンカーバイド）に続く新素材を使った次世代デバイスの研究開発などにも積極的に取り組んでいます。エネルギーシステム事業では、高い変換効率と安定性を誇る情報通信インフラ向けの整流装置を主力に販売しておりますが、最近ではEV向けの充電インフラ装置の開発・販売にリソースを傾けるなど成長市場への投資も活発に行っています。今後、様々な充電スポットで皆さまのお役に立てることを願っております。また、将来のEV社会に向けて駐車場に停車しているだけで充電を可能

とする非接触充電器の開発等も行っていますので、近い将来、皆さまのご自宅に設置される機会が訪れることを期待しています。電装事業では、これまでアジアを中心に二輪車向け電装品の販売を拡大し、各国の排ガス規制等に貢献してきました。今、モビリティ市場は内燃機関係から電動化に急速にシフトしていますので、E C U (電子制御ユニット) やD C/D Cコンバータ(直流の電圧値を変換する装置)などの環境に配慮した製品開発を次々に進めています。

## ■直面する世界共通の課題

世界平均気温が1940年からの観測史上で過去最高となり、2023年が記録上最も暑い年となることが確実のようです。世界では、アジアや北米、欧州、アフリカが熱波に見舞われ、カナダやギリシャ、スペインなどで山火事が相次ぎ、多くの被害がもたらされました。当然、日本も今年の夏は異常な暑さが続き、ここ秋田でさえも11月に夏日を記録するなど、地球温暖化の進行を身を以って感じる年となりました。暑さが和らいだ後は猛暑によるエサ不足の影響も相まって、私たちのごく身近な生活圏で熊による人身被害が毎日のように報道されるようになりました。暖冬になれば冬眠しない熊も出てくる可能性もあると言われており、常に熊に注意を払わなければならない生活を強いられるかもしれません。食べ物に目を向けると、秋の味覚の“さんま”の漁獲量は10年前の1/10までに落ち込みましたし、秋田名産の“はたはた”においては、昔は毎日のように食卓に並んだと聞きますが、さんま以上に漁獲量は減少しているようです。私の感覚ではなかなか手が出し辛い高級魚になっています。

これら全てが気候変動の影響によるものだと一言で言い切れるものではないとは思いますが、少なからず影響があると言えるでしょう。世界は地球温暖化という共通の課題に直面しており、これらの解決に向けて、国内外のエネルギー消費効率の改善を一層進めなければならない状況です。

## ■企業ミッション遂行

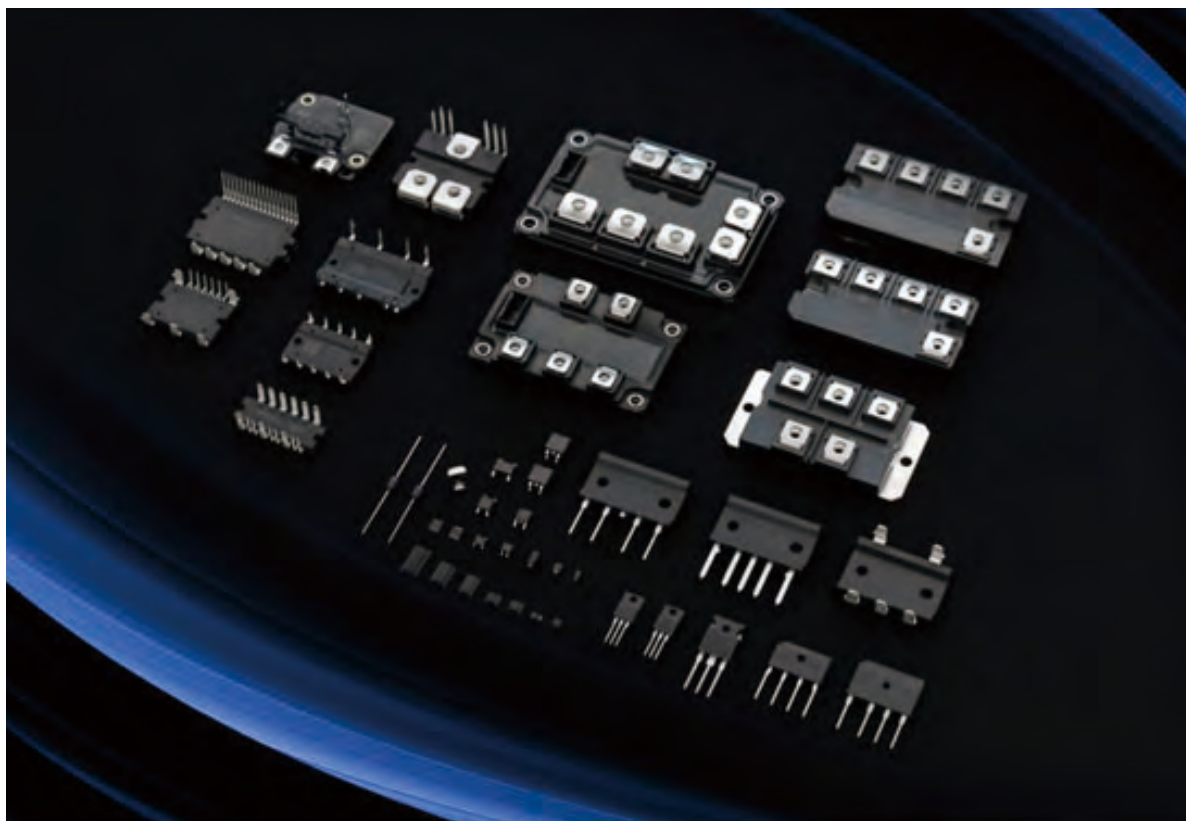
新電元工業株式会社は、創立50周年を機に、21世紀における新電元のミッションを表明し、新電元グループの企業ミッションとして、経営理念と共に体系を整えました。

経営理念：「社会と共に、顧客と共に、従業員と共に、成長する企業」  
企業ミッション：「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、  
人類と社会に貢献する」

この企業ミッションは20年ほど前にできたものですが、新電元グループの事業内容と歩んできた時代背景、そしてこれから迎える新しい時代を想像した時に、多くの方に共感頂けるのではないかと考えています。当社の製造するパワー半導体は、繰り返しに



なりますが、その名の通りパワー（電力）を使う電気回路に用いられる小さな電子部品です。その一つひとつがエネルギーロス低減を追求していますので、多くの電子機器に搭載されることで電力消費を大幅に低減できます。これからもより一層技術に磨きをかけて、脱炭素社会実現の一翼を担う製品を提供し続けることで、当社に与えられた使命をしっかりと果たしていきたいと考えています。



(新電元のパワー半導体製品)

#### ■終わりに ～ブランド力の強化～

少し古い話になりますが、今から6年前の2017年の7月、新電元工業株式会社はコーポレートブランドの強化による訴求力向上を目指し、長く親しまれてきたダイオードをモチーフとしたロゴマークから、新ブランドロゴへと刷新しました。私は前職でこのプロジェクトをまとめる立場で参画し、商標登録や社内浸透の時間も含めて発表までに概ね2年程関わりましたので、新ブランドロゴには強い思い入れがあると共に自分の中でとても大切なものになっています。

新ブランドロゴへの刷新と同時に、ブランドステートメントの新設と、「私達の約束」としてブランドプロポジション（ブランド定義）も明確化しましたので、ありがたい姿や想い、存在価値等をステークホルダーに向けて端的に表現できたと思っています。さらに、国内外含めたオール新電元でブランドを統一できた（それまではグループ各社がそれぞれのロゴを所有していましたし、ユニフォームも統一されていたとは言えない状況でした。）ことで、グループの一体感が醸成されたと感じています。これが、新電元グルー

プにとって何よりも大きなメリットになったのではないかと個人的には思っています。新電元はグループで成長していく企業だと思っています。コーポレートブランドの強化に向けた取組みはまだ始まったばかりで大きな成果を実感できるまでには至っておりませんが、秋田新電元はこれからも秋田から“ShinDengen”ブランドの製品を世界各国に向けて送り続けながら、企業価値向上に努めてまいり所存です。引き続き皆さま並びに関係各位の特段のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新ブランドロゴ ▶

**ShinDengen**

New power. Your power. ◀ブランドステートメント

**私たちの約束：声を聞き、先を読み、価値ある未来を創る**

(大浦工場(本社))



(飛鳥工場)



## 会社概要

- 1 会社名 株式会社秋田新電元
- 2 代表者 代表取締役社長 松本 義明
- 3 所在地 〒015-8558 由利本荘市大浦字上谷地114-2
- 4 電話番号 0184-22-2327
- 5 F A X 0184-24-4354
- 6 U R L <https://asd.shindengen.co.jp/>
- 7 設 立 1970年（昭和45年）7月10日
- 8 資 本 金 4億9,000万円
- 9 売 上 高 132億円（2023年3月期）
- 10 従 業 員 数 750名（2023年11月現在）
- 11 事 業 内 容 半導体の製造
- 12 経営理念・  
企業ミッション  
経営理念：  
「社会と共に、顧客と共に、従業員と共に、成長する企業」  
企業ミッション：  
「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、  
人類と社会に貢献する」